

2021年度理事長所信

一般社団法人中津川青年会議所
第67代理事長 石田 詔三

誰もが輝く 持続可能な中津川の創造

～未来を切り拓く 主人公となれ～

【はじめに】

今、我々は「明るい豊かな社会」の実現のために何をすべきでしょうか。
そして、地域の未来のために何が残せるのでしょうか。

近年、世界ではインターネットやスマートフォンの普及により、世界中の多くの情報を知ることができるようになり、グローバル化と共に社会全体の多様化が進んでいます。また、日本では仮想空間と現実空間を高度に融合させたシステムで、地球温暖化や地方の衰退などの社会的問題解決と経済発展を両立する社会「society 5.0」を国家戦略として掲げています。今後、我々を取り巻く環境はAIにより必要な情報が必要な時に提供されることやIoTですべての物と人が繋がることが予測され、人の働き方や価値観が大きく変わろうとしています。そのような中で、2020年に世界を震撼させた新型コロナウイルスは、世界規模で社会、経済に大きな打撃を与え、この地域に住まう人々も命を守るために、これまでの幸せに生きるために培ってきた日常から様々な行動変容を強いられています。しかしその反面で、我々は、地域の人からの心温まる言葉をいただくことや市民が地域のために行動する姿を見ることで人の温かさや日常の大切さを改めて実感でき、ウィズコロナ・ポストコロナ時代を深く考えるきっかけとなりました。

私は、今こそ中津川青年会議所メンバー各々が主人公となり、その力を結集し、「社会的問題解決」と「持続的な地域社会の発展」に向けて行動を起こすことで、誰一人取り残すことなく、誰もが希望を持ち、持続的に輝く中津川の未来が切り開けると信じます。

中津川青年会議所は、紛れもなく「地域のため」に存在します。それは、我々が地域の課題解決のために目的意識をもち「地域の未来のため・人々の幸せのため」に行動を起こすからです。

私は、青年会議所活動を通して、多くの出会いや学びから自らの意識をも変革され、同じ理念に向かう沢山の仲間に刺激をいただきました。今の私自身があるのは、中津川青年会議所の仲間が温かく支えてくれたからであり、多様な成長の機会を与えてくれる組織であったからです。そのような可能性に満ち溢れた中津川青年会議所が、個の力を高め、その力を

結集し、最大限の効果を発揮することで、希望溢れる未来が切り拓けると私は確信します。だからこそ、現状を理解し、課題の本質を見極め、解決に真っ向から立ち向かえる勇気と、本気でまちを変えようとする青年の情熱をもって行動していきましょう。

【持続可能な社会推進】

中津川市は、リニア中央新幹線の開通という明るい話題があり、「中津川市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の中で、将来にわたって「活力ある地域社会」の実現を掲げています。しかし現状、少子高齢化や人口流出による働き手不足、新型コロナウイルスの打撃により企業や地域社会の衰退が懸念されています。

中津川市で住み暮らし、仕事をしている我々も、将来にわたって「活力ある地域社会」を実現するために、企業経営の視点から地域社会の課題に取り組み、自社の成長に繋げ、持続可能な企業となる必要があります。持続可能な企業となるには、将来に渡って発展を続けられる世界を次代に残すため、国連が採決したSDGsを活用し、社会の課題にも取り組み企業の存在価値を向上することが重要です。企業がSDGsを効果的に活用し、社会貢献活動を「見える化」することで、働き手のやりがいと市場開拓に繋がり、存在価値も高まります。だからこそ、我々がSDGsの本質を捉え、「今からできること」、「本業を通じてできること」を考えて、各々の企業で目標に向けて取り組み、発信する必要があります。そして、地域の企業を巻き込み運動を最大化することで、地域経済を活性化し、持続的な地域社会の発展に繋がると信じます。

【命を守る防災・減災の推進】

日本では、地震、風水害などの自然災害数は近年増加傾向にあり、今後30年以内にM8以上の東海地震の発生確率は80%以上もあります。中津川市においても、阿寺断層帯における直下型大地震が危惧されており、過去には四ツ目川の氾濫、伊勢湾台風、集中豪雨による土砂崩れなどの自然災害に見舞われ、尊い命や財産を失っています。

このような自然災害を完全に予測することや、人の力でくい止めることはできません。しかし、災害による被害は常日頃からの想定や準備、人の協力で減らすことはできます。我々は、市民の命を守るためにも災害の被害を未然に防ぐ「防災」、災害の被害を最小限に抑える「減災」、その両方向の視点を持ち、災害に強い地域とする必要があります。そのためには、我々が中津川市の現実を直視し、「防災」と「減災」のノウハウを学び、必要となる対策を構築する必要があります。そして、中津川青年会議所は行政・企業・諸団体・全国の青年会議所と連携し、災害時には被災地への支援を行ってきた実績があります。我々は、その繋がりを活かし、災害時の被害を最小限に抑えるために、各分野の災害時の動きを理解し、効果的な災害支援ができるようになる必要があります。そして、その「防災」と「減災」双方を取り入れ、中津川市の強靱化に向けた取り組みを行うことで、市民の命を守り、誰もが安心・安全に暮らせる地域を確立できると信じます。

【持続可能なおいでん祭の創造】

真夏の中津川を彩るおいでん祭は、市民に中津川市への愛着をもってほしい、という想いで中津川青年会議所が始め、今年で35年目を迎えます。毎年、我々もおいでん祭実行委員会として、おいでん祭に携わることで地域の人からの信頼をいただいています。しかしながら、おいでん祭に対して、「団体、企業として参加したいが参加機会がない」、「毎年参加しているがもっと良くしたい」など、市民の声があるのも事実です。また、去年は新型コロナウイルスの影響により、中津川の夏まつりはほとんどが中止となり、寂しい夏となりました。

こんな時だからこそ、中津川全体の活力とするためにも「地域と地域」を繋ぎ「人と人」の心の距離を近づけ、市民の心の拠り所となる、おいでん祭を創造する必要があります。そのためには、我々が先頭に立ち、中津川全体の夏まつりのあり方についても考えて、各地域と連携し、さらなる可能性を見いだしていきましょう。そして、おいでん祭に携わる人や市民と対話を重ね、まつりに携わる人が輝き、見に来た人が感動できるおいでん祭を開催することで、多くの市民の愛着に繋がり、郷土愛溢れるまつりへと発展すると信じます。

【持続可能な組織の形成】

時代の変化が激しく、多様化する社会の中、中津川青年会議所は、定款、諸規定などを基に運営し、地域のための運動を仲間と共にやる組織です。しかし、中津川青年会議所の会員数は減少傾向にあり、このままでは、組織の活動に影響を及ぼすと同時に運動発信する力も弱まってしまいます。

我々は、この現状を打破し、地域の未来のためにも仲間を増やし、持続可能な組織となる必要があります。そのためには、我々が活動の意義を理解して、時代に即した手法で各会議の「効率的な運営」を行うことが重要です。また、活動に込めた想いを今までにない切り口で、情報媒体や効果的な発信方法を考えて「戦略的な広報」をすることが重要です。その「効率的な運営」と「戦略的な広報」を我々が実践することで組織の価値や認知度を高めることができ、仲間が増えるのだと考えます。それが運動発信を強めることに繋がり、外部から理解と信頼を得られる中津川青年会議所へと発展していくと信じます。

【結びに】

未来は目指し、創るものです。本当に「誰もが輝く持続可能な中津川」を創りたいと思うなら、自身が主人公となり、もっと現実と向き合しましょう。そして、仲間と語り合い、建設的な取り組みを仕掛けていきましょう。失われた時間は戻ってきません。なぜあの時、見えて見ぬ振りをして、挑戦しなかったのかと、後悔しない青年会議所活動をしましょう。その先に「明るい豊かな社会」の実現という希望溢れる未来が切り拓けます。

<運営方針>

- ・多様性を認め合える J A Y C E E
- ・仲間のために行動できる委員会運営
- ・中津川青年会議所の価値を高める L O M 運営

<運動方針>

- ・変化に強い J A Y C E E の育成
- ・「持続可能な中津川」を創造するまちづくり運動
- ・中津川青年会議所のブランディング